

二年学年だより

No. 6

9 月号

令和5年9月1日発行

204HR

後になって分かること

この学年だよりを配布する頃には、夏休みが終わり、2学期が始まっている。今年はどうな夏を過ごしただろうか。当然のように毎年やって来る夏だが、その年の夏を振り返り、「〇〇の夏」と名付けて記憶に残しておきたいものだ。ちなみに、「アウトドアの夏」が私の今年の夏の記憶である。

話は少し変わって、先日、同じ歳の同僚の先生と自分の学生時代を語る機会があった。数十年前の自分を振り返って、懐かしい思い出が蘇ってきた。一番印象に残っているのは、大学4年生の時期である。まず教員採用試験対策。次に、二つの専攻ゼミを行き来した研究における卒業論文。さらに、属していた書道研究会の卒業制作。その上、アルバイトも英会話スクールも書道教室も、大学卒業まで続けた。どれも手を抜くことのできないものを同時に抱えた、濃密な1年間だった。結局、失敗も挫折も繰り返しながら、一つ一つ丁寧に成果を出し、望んだ形で大学卒業を迎えた。

その後、達成感に浸る間もなく新生活をスタートさせ、そして今に至る。その頃の記憶を季節で例えると灼熱の夏。睡眠時間を削るしかない、とてつもなく忙しい毎日だったが、忍耐の中にも楽しく充実した思い出がぎゅうぎゅうに詰まっている。もちろんその頃は、将来の自分のためだと思って努力していたわけではない。「やるべき時は今だ！」と無我夢中で取り組んでいただけだ。でも、今になって分かることは、今の自分に確かに繋がっているということ。自分で選んだ道において、自分に限界を作らず、可能性を信じて、前進する。言い訳も弱音も、ごくりと自分で飲み込んで、自分に後悔のないように打ち込む。そういう体験は、やがて自分の体幹となっているということに、後になってじわじわと気付き始める。

勉強も部活動も、その他のことも全て同じことが言えると信じている。すぐに成果が出ることを求めて、小手先の仕事で済ませようとする、やはり得られるものもそれなり。時間がない、環境が悪いなど、言い訳を並べるときりがない。じわじわと結果が出るまで、いや、結果が出始めても、自分が満足できるまで、とにかく夢中で取り組んでみよう！

素敵な夏休みを終え、新学期を迎える皆さんの輝いた目を見ながら、「〇〇の夏」の思い出をたくさん聞いてみたい。「元気バクハツ！」の皆さんと、2学期を共にスタートできることを楽しみにしている。

(204HR担任)

後にならなければ分からないことも

後にならなければ分からないこともたくさんあります。あの時やっておけばよかったと後悔してばかりではないですか？ もうそういうことはやめませんか。過去を取り戻すことはできません。未来はどうなるかわかりませんが、今どうするかで決まってきます。だから、大事な今は今です！ 今度やりますの今度は来ません。

さあ、2学期がスタートします。やるべきことは何ですか？ 今何をしますか？ そして、後になって、「あ、あの時ががんばったおかげで、今できているんだな。」とか「あの頃は、無駄なことに感じていたけど、無駄じゃなかったんだな。」と思えるように、とにかく今やらなければならぬことに集中して取り組んでいこう。あなたたちに課されていることで、無駄なことは一つもありません。

明日に向かい、今を生きる！ **Seize the Day!**

(204HR副担任)